

農業経営基盤強化促進法第18条第1項の規定に基づき、公表します。

都城市長 池田 宜永

市町村名 (市町村コード)	都城市 (45202)	
地域名 (地域内農業集落名)	祝吉 (南早水、北早水、上郡元、千町、神之山、下郡元、南郡山、上川東の東、上川東の西、下川東)	
協議の結果を取りまとめた年月日	令和5年12月5日	

1 地域における農業の将来の在り方

(1) 地域農業の現状及び課題

<p>【人口減少・高齢化】 ・耕作者の年齢割合は70歳以上が高く、後継者未定の農地も多くあり、農地の維持・保全のためには受け手の確保が必要不可欠である。 ・担い手が少なく、集積・集約が難しい。 ・担い手は現在の規模で手いっぱいであり、10年先を考えると耕作者がいなくなると思われる。</p> <p>【基盤整備】 ・基盤整備が進んでいない地区もあり、農道が狭く大型機械の利用に不向きである。</p> <p>【農地の集積・集約】 ・農地を集約して畦畔除去等を行うことで農地の面積を広げなければ、大型機械の利用も難しい。 ・他地区からの入作があり、集約が困難である。</p> <p>【法人化】 ・法人化については、人が集まらず難しいと考えられる。</p> <p>【鳥獣被害】 ・飼料作物がカラスの被害を受ける。</p>

(2) 地域における農業の将来の在り方

・水田利用を基本としつつ、園芸作物(カンショ、サトイモ、施設キュウリ)や飼料作物(トウモロコシ、牧草)等の団地化を形成する。併せて高収益作物の導入を検討する。

2 農業上の利用が行われる農用地等の区域

(1) 地域の概要

区域内の農用地等面積	125.8 ha
うち農業上の利用が行われる農用地等の区域の農用地等面積	125.8 ha
(うち保全・管理等が行われる区域の農用地等面積)【任意記載事項】	ha

(2) 農業上の利用が行われる農用地等の区域の考え方

・「農業上の利用が行われる農用地等の区域」については、農業振興地域内の農地等が含まれるように設定することとし、その上で、様々な努力を払ってもなお、農業上の利用が見込めず、農用地として維持することが困難な農用地については、粗放的な利用等による農用地の保全等を図る。

3 農業の将来の在り方に向けた農用地の効率的かつ総合的な利用を図るために必要な事項

(1)農用地の集積、集約化の方針
・担い手を中心に集積・集約化を進め、団地面積の拡大を農業委員や農地利用最適化推進委員、農地中間管理事業推進員と調整し、農地中間管理機構を通じて進める。
(2)農地中間管理機構の活用方針
・今後、農地の相続等に伴い地権者が地区外に在住する場合が多くなることから、賃料の支払いや貸借契約を円滑に進めるために農地中間管理機構を活用していく。 ・担い手が病気・怪我や高齢化等の事情で営農の継続が困難になった場合には、農地の新たな受け手への付け替えを進めることができるよう、農地中間管理機構を通じて担い手への貸付けを進めていく。
(3)基盤整備事業への取組方針
・地区内の農地は基盤整備が進んでいない地域もあり、農道の整備や畦畔除去を進め耕作条件の改善に向けた検討をしていく。
(4)多様な経営体の確保・育成の取組方針
・地域内外から、多様な経営体を募り、意向を踏まえながら担い手として育成していくため、関係機関と連携し、相談から定着まで切れ目なく取り組んでいく。
(5)農業協同組合等の農業支援サービス事業者等への農作業委託の活用方針
・農業機械を所有していない土地持ち非農家や、農作業ができない高齢者等には、(有)アグリセンター都城等への委託を促す。

以下任意記載事項(地域の実情に応じて、必要な事項を選択し、取組方針を記載してください)

<input checked="" type="checkbox"/> ①鳥獣被害防止対策	<input checked="" type="checkbox"/> ②有機・減農薬・減肥料	<input checked="" type="checkbox"/> ③スマート農業	<input type="checkbox"/> ④輸出	<input type="checkbox"/> ⑤果樹等
<input type="checkbox"/> ⑥燃料・資源作物等	<input type="checkbox"/> ⑦保全・管理等	<input type="checkbox"/> ⑧農業用施設	<input type="checkbox"/> ⑨耕畜連携	<input checked="" type="checkbox"/> ⑩その他

【選択した上記の取組方針】

①鳥獣被害防止対策

・カラスによる飼料作物の被害を防止するため、侵入防止対策や駆除に努める。

②有機・減農薬・減肥料

・可能な作物は有機や減農薬栽培に取り組む。

③スマート農業

・労働力不足が課題となっているため、スマート農業を活用し、農作業の省力化等を進める。

⑩その他

・栽培管理の効率化や農地の利用性向上のため、水系を考慮して水稻、大豆、飼料作物でブロックローテーションに取り組む。